

感染症の登園基準

※主治医の診断を受けてから登園してください

○印は登園意見書が必要な疾患です。

病名	意見書	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	登園基準
インフルエンザ	○	1～3日	感染後約10日	発熱、全身倦怠、筋肉痛、 鼻カタル、咽頭痛、咳	発症した後5日を経過し、かつ 解熱後3日を経過したとき
百日咳	○	6～15日	感染後約3週	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失したとき
はしか（麻疹）	○	10～12日	発疹出現の前後4～5日	上気道のカタル、発熱、 粘膜疹コプリック斑	発疹に伴う熱が下がった後、 3日を経過し元気が良いとき
おたふくかぜ （流行性耳下腺炎）	○	14～24日	明らかな症状を示す7日 前からその後9日続く	発熱、耳下腺、舌下腺、顎下線の腫 脹及び圧痛	腫脹が発現して5日を経過し、かつ 全身状態が良好になったとき
三日はしか（風疹）	○	14～21日	発疹出現の前後7日間	種々の発疹、軽熱、リンパ腺腫大	発疹が消失したとき
水ぼうそう（水痘）	○	10～20日	水疱発現前2～後6日	軽熱、被覆部に発疹、斑点丘疹状→ 水疱→顆粒状痂皮	すべての発疹が痂皮（かさぶ た）になったとき
プール熱（咽頭結膜熱）	○	5～7日	潜伏期後半～ 発症後約5日前	発熱、全身症状、 咽頭炎と結膜炎の合併症	解熱し、主要症状がなくなった 後、2日を経過してから
流行性角結膜炎	○	1週間以上	発病後約2週間	軽熱、頭痛、全身倦怠、 結膜の炎症、眼瞼浮腫、目やに	治療するまで
急性出血性結膜炎		1～3日	発病後約4日	流涙、結膜充血、眼瞼浮腫、 滲出液	治療するまで
ヘルパンギーナ		2～7日	/	高熱、咽頭痛、咽頭に発疹	解熱し、食事也十分できて 元気になったとき
手足口病		2～7日	水疱消滅まで	感冒様症状、 手足口に赤斑→発疹	元気がよければ登園可能
りんご病（伝染性紅斑）		4～14日	/	顔面赤斑とくに頬部の赤斑性発疹	感染力はないので、 元気がよければ登園可能
溶蓮菌感染症		2～4日	潜伏期後半～ 発症後約7日間	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌 頸部リンパ節炎、全身に発疹	有効治療を始めてから 2～3日たって
乳児嘔吐下痢症 （ロタウイルスによるもの）			不定期	発熱、下痢、嘔吐	主な症状がほとんど消失し、 主治医、園医が登園して差し支 えないと認めたととき
感染性胃腸炎 （小型球形ウイルス・SRSV）		1～3日	/	発熱、腹痛、下痢	主な症状がほとんど消失し、 主治医、園医が登園して差し支 えないと認めたととき
マイコプラズマ肺炎 （うつる肺炎）	○	10～24日	/	咳、発熱、呼吸困難（重症の場合）	症状が改善し、元気であれば 登園可能
突発性発疹		約10日	/	高熱、3日後に全身に発疹	主な症状がほとんど消失し、 主治医、園医が登園して差し支 えないと認めたととき
ヘルペス性歯肉口内炎 （単純ヘルペス感染症）		2日～2週間	/	口内炎症	症状が改善し、元気であれば 登園可能
とびひ（伝染性膿痂疹・ 皮膚化膿症）		2～10日	水疱消滅まで	主として豆つぶ大の水疱自覚症状 あまりなし	他人への感染のおそれがない と医師が認めたととき
水いぼ（伝染性軟属腫）		14～50日	/	球状のいぼ	他人への感染のおそれがない と医師が認めたととき